

## 平成23年度 倫理審査委員会

### 【第1回 倫理審査委員会（平成23年9月28日）】

申請番号：23-1

申請者：看護師 河野 和恵

申請課題：結核患者療養支援強化に向けて（地域連携強化のための退院連絡票の検討）

研究概要：過去2年間の研究において、看護師による統一した結核患者指導の実際を支援するため、服薬指導体制の確立に取り組んだ。その結果、院内の服薬支援体制が確立され、看護師の服薬支援への意識の変化が少しずつではあるが認められるようになった。平成17年国立病院機構より導入された新退院基準では、入院期間の短縮化と共に「保健所との連携がなされ、DOTS等のシステムにより服薬継続が保障されている」と提示されている。そのため、院内DOTSから地域DOTSへのスムーズな移行が必要である。現在患者支援の為の結核患者の情報提供は看護サマリーの形で提供する形をとっているが、病院独自の情報であり、少なくとも地域に必要な情報といえないのが現状である。そこで、今回、外来を含む病院、地域との連携における問題点を明らかにし、退院連絡票を作成・活用することで結核患者療養支援における地域連携強化が行える。

判 定：承認

申請番号：23-2

申請者：看護師 治九丸 知佳

申請課題：筋ジストロフィー病棟での人工呼吸器の実態（過去のヒヤリハットよりトラブルの要因を明らかにする）

研究概要：北2病棟では、人工呼吸器が33台稼働しており、看護師が行う人工呼吸器管理は多様化している。人工呼吸器を装着したままの入浴介助や、NIPPV患者の鼻マスクからアダムサーキットへの変更など、多くのリスクを抱えている。病棟ではヒヤリハット事例が起きた際にはスタッフ間でのカンファレンスを行い原因分析・対策を立案し、安全管理を行っている。さらに院内において人工呼吸器管理チームが活動しており毎月1回病棟を巡回し、人工呼吸器管理状況のチェックを行っている。しかし、人工呼吸器関連のヒヤリハットは年間10数件発生し、事例によっては、対策を講じているにもかかわらず同じようなことが起きている現状がある。今回、安全な人工呼吸器管理を行うためにも、過去5年分の人工呼吸器関連のヒヤリハット事例の原因分析と再検討を行い、その傾向やこれまでの対策の評価を行うことで、今後の人工呼吸器の安全管理、スタッフ教育に繋げていく。

判 定：承認

申請番号：23-3

申請者：療育指導室長 川上 茂美

申請課題：成年後見人についてのアンケート調査

研究概要：アンケート調査をもとに後見業務についての実態や課題を把握し、今後のサービス向上に役立てる。調査に参加することで当院の親族後見人の現状を把握ことが可能であり、今後のサポートのあり方を検討することによってサービス向上に繋がる。

判定：承認

申請番号：23-4

申請者：主任保育士 深山 みどり

申請課題：音楽療法を導入した療育活動（音楽セッションの効果検証）

研究概要：音楽療法の効果についての検証。グループ療育の一環として、個別支援プログラムに基づいた発達支援を行うことで、病棟生活における生活の質の改善に繋がると考える。

判定：承認

申請番号：23-5

申請者：統括診療部長 杉崎 勝教

申請課題：睡眠時無呼吸症候群のシーバップ治療における外来管理の改善

研究概要：睡眠時無呼吸症候群患者でのシーバップ治療の問題点を明らかにし、介入することでより治療が円滑に行われることを目的とする。患者に対するアンケート調査を行い、シーバップ治療の問題点を明かにする。その後問題点を整理あい、個別に解決策を考えマニュアル化を行う。

判定：承認

## 【第2回 倫理審査委員会（平成23年10月27日）】

申請番号：23-6

申請者：看護師 佐藤 裕香里

申請課題：退院支援システムの構築

研究概要：退院支援の必要な患者に対して、看護師が入院時から退院に向けた関わりができる退院システムを構築することを目的とする。退院調整ツールを中2病棟で使用し、使用前後の看護師の意識・知識の変化をもとに、看護師の退院支援の意識や実践能力を高め、中2病棟に即した退院支援システムを構築する。

判定：承認

申請番号：23-7

申請者：看護師 渡邊 裕美

申請課題：看護師の「確認」に対する意識と実際の差

研究概要：当病棟では内服薬の配薬は、その日の担当看護師が日勤帯で配薬ケースに一日分を配薬している。配薬時には処方箋をみて、5Rを指さし、声だし確認することが、当院の医療安全マニュアルにて定められており当病棟でも5Rの確認を行い配薬をしている。しかし昨年度、配薬に関して調査した際、声だし、指さしを行っている病棟看護師は2名のみであった。さらに、配薬ケースの朝夕の入れ間違い、2錠を1錠しか入れていないなどの間違いが起こった。本研究では病棟看護師の配薬時の確認行為を実態調査することで、5Rの指さし、声だしの実態を明らかにする。そして病棟看護師へのアンケート調査を行うことで、「確認」に対しどのような意識を持っているかを調査する。両者を比較し確認行為の実際と意識の差を明らかにする。

判定：承認

申請番号：23-8

申請者：看護師 諸富 佳央里

申請課題：排痰を促す有効な体位ドレナージ方法の検討

研究概要：神経難病で人工呼吸器装着患者の排痰に有効な体位ドレナージ方法を明らかにする。主治医、理学療法士と排痰に有効で安全な体位、完全側臥位と腹臥位施行にあたって必要な枕について検討する。また、現在の三角枕を使用している体位変換は有効であるかを調べる。

判定：承認

申請番号：23-9

申請者：看護師 西 崇

申請課題：看護師経験年数によるコミュニケーション時の視点の相違（ALS患者におけるコミュニケーションを通して）

研究概要：日常生活場面において看護師経験年数によるコミュニケーション時の視点を把握することで、ALS患者とのコミュニケーション技術を高めるとともに、今後の看護に役立てる。

判定：承認

申請番号：23-10

申請者：療養介助員 宇野 佐智

申請課題：療養介助員導入における患者のQOLの変化と今後の課題（患者への満足度調査を通して）

研究概要：介助員の日常生活援助における患者アンケート調査を行い、病棟における療養介助員の役割についてさらに、病棟における介助員の役割を明確にし介

助員としての意識・意欲の向上を図る。今後の課題を明らかにし、患者が求める日常生活援助を充実させ患者のQOLの向上を目指す。看護・介護の両面よりケア及び日常生活援助を充実させ、患者の現状よりさらに、患者満足度向上を目指す。また、病棟における介助員の役割を明確にし、介助員としての意識・意欲の向上を図る。

判 定：承認

申請番号：23-11

申請者：看護師 丸小野 まゆみ

申請課題：筋ジストロフィー患者の爪病変の減少を目指して（実態調査カルテ作成による現状把握）

研究概要：筋ジストロフィーの患者の爪の実態を把握し、患者の抱えている問題を明確にする。爪のケアマニュアルを作成する。マニュアルを基に、効果を検証する。看護職員の爪のケアに対する意識を高める。

判 定：承認

申請番号：23-12

申請者：看護部 土屋 悟

申請課題：筋ジストロフィー病棟におけるQOL向上への取り組み

研究概要：筋ジストロフィー病棟において、患者のQOLの向上のため療養介助員が採用され、3年が経過しました。筋ジストロフィー患者は長期療養患者であり、患者は個々でライフスタイルが確立されており、QOLの向上のためには患者それぞれにあった援助が必要となる。そのため、各患者の援助を、全スタッフが統一して、計画的に行えることを目的とし、療養介護サービス提供実施記録作成し、使用している。また、筋ジストロフィー患者は、進行性の疾患であり、それに伴い援助の内容も増えてきている。しかし、実施記録の援助内容の更新が出来ていなかったり、実施サインが漏れていたり、記載方法も周知されていない等の現状があります。そこで本来の目的である患者のQOLが向上する実施記録にしていくために全スタッフを対象としたアンケート調査を行い、問題点を明確にする。

判 定：承認

申請番号：23-13

申請者：看護師 小長 恵

申請課題：重症心身障害児（者）病棟における腰痛帯の正しい着用方法による腰痛予防の効果

研究概要：腰痛・腰痛帯の装着方法の勉強会を行い、病棟スタッフが正しく腰痛帯を装着することで、腰痛の予防・軽減を図る。

判 定：承認

申請番号：23-14

申請者：看護師 河村 亜妙美

申請課題：気管切開部に発赤を繰り返す患児へのアプローチ

研究概要：患児に見合った頸部の処置を検討し、発赤が軽減し、消失することで苦痛緩和が出来る。頸部の発赤を軽減することで搔痒感などの不快感を軽減できる。発赤を軽減することでカニューレ挿入部からの感染を予防することができます。

判定：承認

申請番号：23-15

申請者：看護師 川原 良恵

申請課題：体緊張がある重症心身障害児の気管カニューレ固定方法の検討

研究概要：対象に合わせた安全な気管カニューレ固定方法の検討。体緊張がある重症心身障害児の気管カニューレ固定方法を、看護研究としてエビデンスに基づいた一事例を提案することができる。

判定：承認

申請番号：23-16

申請者：看護師 森下 啓子

申請課題：誤嚥防止のポジショニングの時間検討

研究概要：誤嚥防止のポジショニングを実施し、患者の苦痛を軽減できる時間を明らかにする。

判定：承認

### 【第3回 倫理審査委員会（平成23年12月12日）】

申請番号：23-17

申請者：副院長 後藤 一也

申請課題：重症心身障害児病棟でみられたヒトメタニューモウイルスの集団感染

研究概要：2009年6月から8月にかけての5週間に、重症心身障害児病棟においてヒトメタニューモウイルスの集団感染を経験した。期間中に23例が発熱し、咽頭拭い液のRT-PCRで陽性例を認め、蛍光抗体法によるHMPVの抗体価を測定し、10例がhMPV感染と診断された。感染が否定された2例を除く21例中10例で肺炎と診断され、うち2例は呼吸不全を認め、気管内挿管と肺内パーカッションベンチレーターを実施した。今回の集団感染の要因として、病棟構造や、処置や日常ケアの多さなどの環境因子と、hMPVの終生免疫の得られにくさなどが考えられた。重症児もhMPV感染の集団発生や重症化のリスク群と考えられ、気道感染症の集団感染をみた場合、hMPV感染も考慮し、早期診断につとめ適切な感染予防策や治療を行う必

要がある。

判 定：承認

#### 【第4回 倫理審査委員会（平成24年3月5日）】

申請番号：23-18

申請者：外科部長 唐原 和秀

申請課題：リンパ浮腫治療のための新しい弾性着衣の開発研究

研究概要：通常の弾性着衣では、治療困難な症例にオーダーメイドの着衣を制作する。今回、リンパ浮腫の病状が進行し、四肢や下腹部に複雑な種々の形状の変化が見られ、また複数のリンパ漏を併発した患者で、既製品や単純なオーダーメイド製品では対応が困難な症例が存在に遭遇した。この患者に適した新しい弾性着衣の開発を行い浮腫の改善状態を維持すること。

判 定：承認

申請番号：23-19

申請者：理学療法士長 梶原 秀明

申請課題：重症心身障害児・者に対する下肢下垂法による換気効率の変化

研究概要：換気効率の低下は、痰の排出を困難にし、感染症の併発や無気肺を生じる原因となる。今回、胸郭変形を有する患者に対し背臥位の状態でベッドより下腿を下垂する下肢下垂法を行い、非対称の軽減を図ることにより、換気効率の改善を試みた。現在行っている背臥位でのポジショニングと下肢下垂法実施時のポジショニング時について、変形の左右対称性・換気効率・体圧分布、それぞれの変化について評価を実施。換気効率については、一回換気量の測定（レスピロメータ使用）、 $SpO_2$ の変化、経皮二酸化炭素分圧の測定。表面筋電図を測定。体圧分布についてはモルテン社製体圧分布センサーを使用。変形の左右対称性については6点評価法を実施。平成23年11月下旬～12月上旬のうち2回前期の評価を実施。ただし、体圧分布に関しては1回のみ測定とする。

判 定：承認

申請番号：23-20

申請者：統括診療部長 杉崎勝教

申請課題：Mycobacterium avium complex (MAC) 症の化学療法におけるエリスロマイシン単剤治療の効果および自然経過に関する後方視的観察研究

研究概要：非結核性抗酸菌症におけるエイリスロマイシン単剤治療の有効性および自然経過を、多施設後ろ向き観察研究によって明らかにする。日本におけるこうした内容に関する大規模な研究がなく新たな臨床的な知見がえられる。

判 定：承認